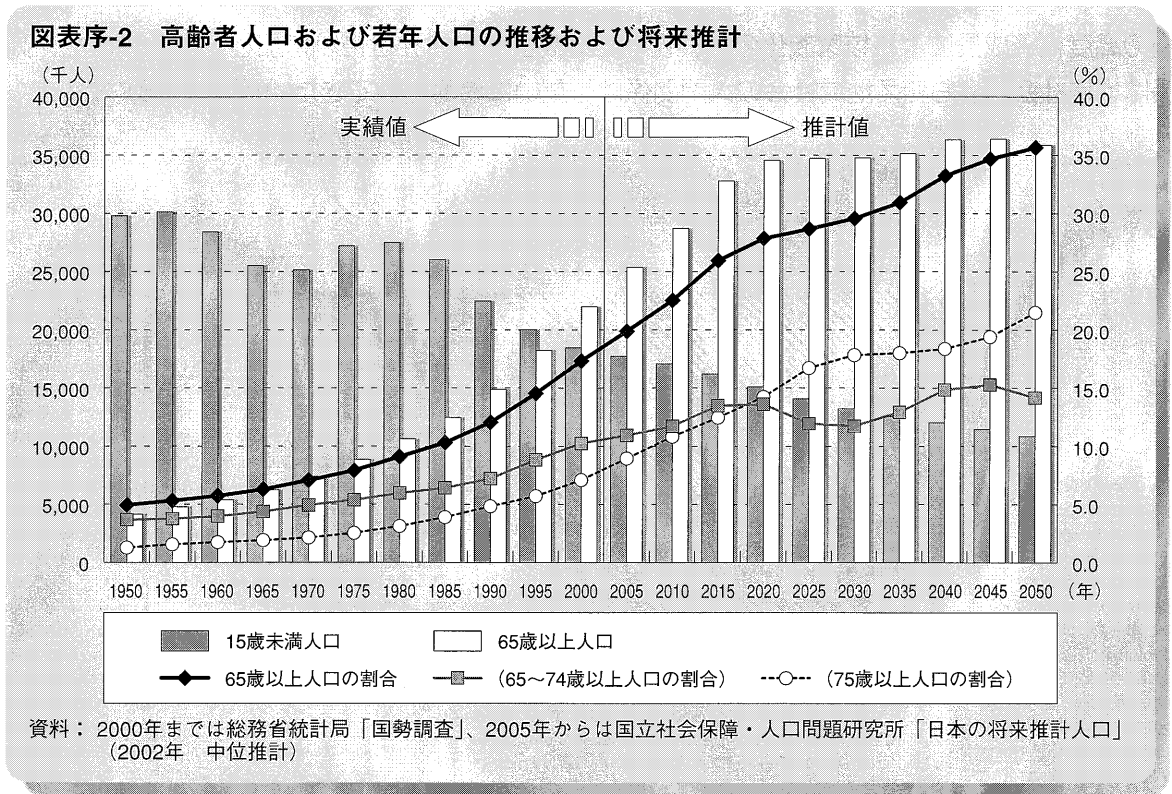
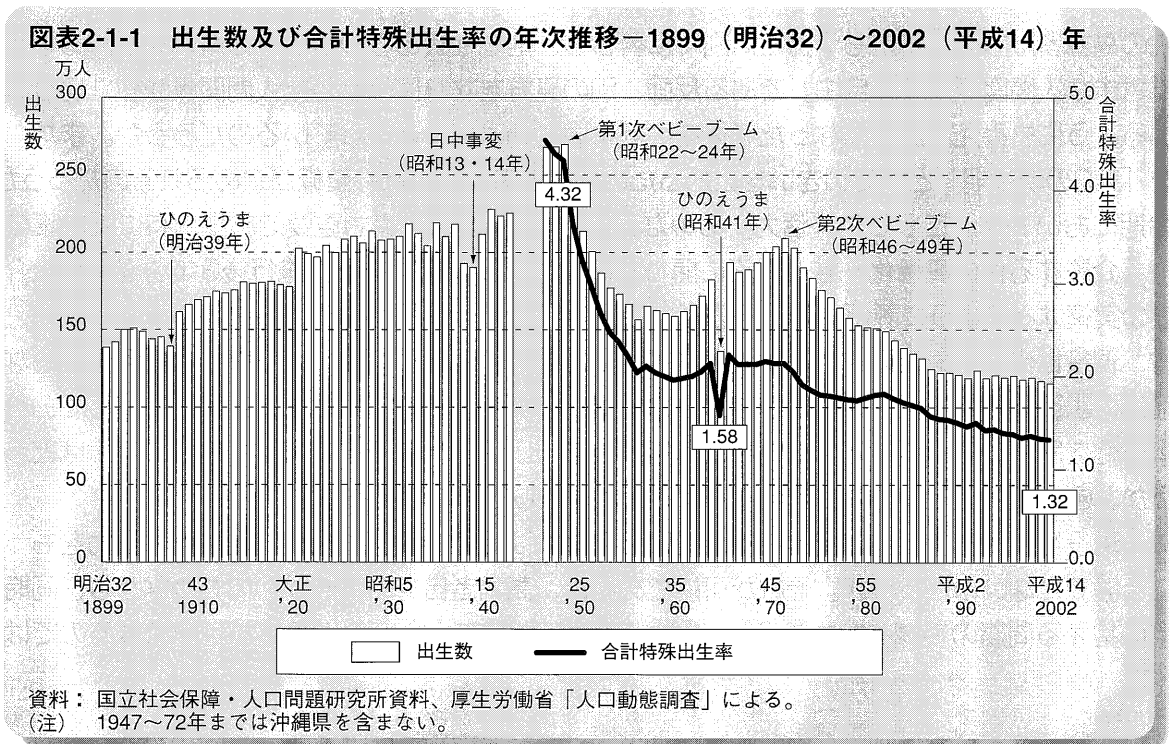


的に元気な層も増大していくことが見込まれる。(図表序-2)



一方、15歳未満の子どもの数はこの20年間に約900万人減少しており、これは20年前の子どもの数の3分の1に相当する。結婚が遅くなるとともに、女性が一生のうちに産む子ども数が減少しており、2002年の合計特殊出生率^(注2)は1.32(概数)まで低下している。(図表2-1-1)



注2 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。